

人権学習展開例〔第3学年〕

1 主 題 障害者の人権について考える

2 教材名

24 だれもが住みやすいまちに



3 主題・教材について

子どもたちは、社会科の学習を通して、自分たちのまちや校区にある公共施設等を訪れ、見学したり、職員にインタビューしたりすることにより、その役割を知る。

この教材では、公共施設等に設置されているスロープや点字ブロック等が、障害のある人たちも含めて、すべての人たちが安全に暮らすためのものであることを理解させたい。また、障害のある人の願いにふれることで、自分自身の生活をふり返り、自分たちができることを考えさせたい。

（関連領域：総合的な学習の時間、道徳）

4 ねらい

- ・ バリアフリーについて理解し、自分たちのまちを見つめ直す。
- ・ 障害のある人のくらしや生き方、願いを知る。
- ・ だれもが住みやすいまちにするために、自分にできることを考える。

5 指導計画

第1次 教材「だれもが住みやすいまちに」を読み、バリアフリーについて理解する。

第2次 自分たちのまちにも、バリアフリーを考えた施設・設備があることに気づく。

第3次 障害のある人の話を聞き、願いを知る。

第4次 すべての人が安全で安心して暮らせるまちにするために、自分にできることを考える。

6 展開例

第1次

○ねらい バリアフリーについて理解する。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・ 社会科で行った「まちたんけん」をふり返る。	・ 見学した施設や出会った人を思い出させる。	
展開	・ 教材「だれもが住みやすいまちに」を読む。	・ しっかり理解させるため、何度かくり返して読む。	ワークシート1
	スロープに自転車がおいてあると、どうして困るのだろう。		
	・ 車いすを使っている人にとって困ることを考える。 ・ ワークシート1に記入し、発表し合う。	・ 実際にそういうことがなかったか思い出させる。 ・ 「自分が車いすを使っていたら」と想像させて、自分のこととして考えさせる。	
	「うれしいわ。」と言ったおばあさんは、どんな気持ちだろう。		
開	・ おばあさんの気持ちを考える。 ・ ワークシート1に記入し、発表し合う。	・ 自分が親切にしてもらったときのことを思い出させる。	
	バリアフリーを考えた設備には、どんなものがあるのだろう。		
まとめ	・ バリアフリーについて考える。 ・ 自分が知っているバリアフリーの設備を思い出し、発表する。	・ バリアフリーの意味を簡単に説明する。 ・ 様々な設備面のバリアフリーがどのように役立っているのかを考えさせる。	
	・ もう一度「だれもが住みやすいまちに」を読む。	・ バリアフリーという観点から自分たちのまちについて調べていくことを伝える。	

第2次

○ねらい 自分たちのまちにも、バリアフリーを考えた様々な施設や設備があることに気づく。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・教材「だれもが住みやすいまちに」を読み、前時をふり返る。	・教材に出てきたバリアフリーの設備について整理をする。 ・スロープ ・手すり ・点字ブロック	
展開	自分のまちの「バリアフリー」を見つけよう。 ・点字ブロックやスロープが、何のためにあるのかを考える。 ・ワークシート2に記入し、発表し合う。 ・自分たちのまちにあるバリアフリーの施設・設備について考える。 ・ワークシート2に記入し、発表し合う。	・点字ブロックやスロープが、どのように利用されているのかを想像させる。 ・どのようなところに、点字ブロックやスロープが設置されているかを思い出させる。 ・点字ブロックやスロープ以外の設備についても考え、どのような役割があるのかを考えさせる。 ・適宜、写真を見せて、子どもたちの考えを支援する。	ワークシート2 バリアフリーの設備の写真
まとめ	学習をふり返ろう。 ・学習をふり返り、気づいたことや思ったことをワークシート2に記入し、発表する。 ・次時の予告を聞く。 ・ゲストティーチャーに質問したいことを考える。	・自分たちの住んでいるまちにも、バリアフリーを考えた様々な施設・設備があり、工夫されていることに気づかせたい。 ・次時に、障害のある人をゲストティーチャーとして招き、話を聴かせてもらうことを伝える。 ・ゲストティーチャーが、どのような人が伝え、質問内容を考えておくことを、宿題にする。	

第3次

○ねらい 障害のある人の話を聞き、願いを知る。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・今日の学習のねらいを知る。 ・ゲストティーチャーの紹介を聞く。	・ゲストティーチャーを招いた目的を確認する。 ・ゲストティーチャーのプロフィールなどを紹介する。	
展開	ゲストティーチャーの方の話を聞こう。 ・ゲストティーチャーから話を聞く。 ・質問をする。	・心に残った言葉をメモさせる。 ※ゲストティーチャーには、子どもたちへの願いなども話してもらう。 ・あらかじめ準備した質問以外にも、聞きたいことを積極的に質問させる。	ワークシート3
まとめ	学習をふり返ろう。 ・学習をふり返り、感じたことや考えたことを、ワークシート3に記入する。	・ゲストティーチャーの願いを、しっかり受け止めさせたい。	

第4次

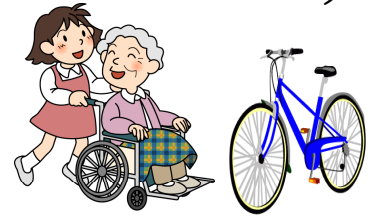
○ねらい すべての人が安全で安心して暮らせるまちにするために、自分にできることを考える。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	・ 前時のゲストティーチャーの話を思い出す。	・ 感じたことや考えたことを発表させる。	ワークシート3
展開	障害のある人が安全で安心して暮らせるまちとは、どんなまちだろう。		ワークシート4
	・ どんなまちだと、障害のある人が安心して暮らせるのかを考える。	・ 前時のゲストティーチャーの願いを思い出させる。	
展開	自分にできることは何だろう。		
	・ 障害のある人が安心して暮らせるまちにするために、自分ができていることを考え、ワークシート4に記入する。 ・ 考えたことを発表し合う。	・ 今までの学習をふり返り、考えた理由を明確にさせる。	
展開	すべての人が安全で安心して暮らせるまちとは、どんなまちだろう。		
	・ だれもが住みやすいまちにするために、自分にできることを考え、ワークシート4に記入する。 ・ 考えたことを発表し合う。	・ 高齢者や幼児など、様々な人の生活の様子を踏まえて、考えさせる。 ・ 障害のある人にとって住みやすいまちは、だれにとっても住みやすいまちであることを理解させる。	
まとめ	学習をふり返ろう。		
	・ これまでの学習をふり返り、感じたことや思ったことをワークシート4に記入する。 ・ 感想を発表し合う。	・ だれもが住みやすいまちにするためには、自分たちの主体的な行動が大切であることに気づかせたい。	

だれもが住^すみやすいまちに

名前（ ）

◎「だれもが住みやすいまちに」を読んで、考えよう。



- 1 スロープに自^{てん}転車がおいてあるとどうしてこまるのでしょうか。

- 2 車いすに^の乗ったおばあさんは、どんなことがうれしくて、「うれしいわ。ありがとう。」と言ったのでしょうか。

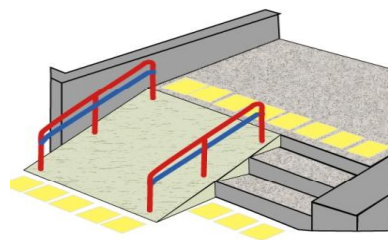
- 3 みんなが知っているバリアフリーのしせつやせつびを書きましょう。

--

だれもが住^すみやすいまちに

名前（ ）

◎ 自分のまちの「バリアフリー」を見つけよう。



1 点字ブロックやスロープは何のためにあるのでしょうか。

○点字ブロック

(利用^{りよう}する人)

(何のため)

○スロープ

(利用する人)

(何のため)

2 自分たちのまちにあるバリアフリーのしせつやせつびを書きましょう。

しせつ・せつび	どこにある	どのような役 ^{やく} わり

3 今日^{けふ}の学^{しゅう}習^{ぎゅう}をふり返^{かへ}って気づいたことや思ったことを書きましょう。



だれもが住^すみやすいまちに

名前（ ）

◎ しょうがいのある人のお話を聞いて、考えよう。

1 お話を聞いて、心にのこった言^{こと}ばを書きましょう。

2 お話を聞いて、感^{かん}じたことや考えたことを書きましょう。

だれもが住^すみやすいまちに

名前（ ）

◎「だれもが住みやすいまち」のために自分ができることを考えよう。

- 1 どんなまちだとしょうがいのある人が安心してくらせるのでしょうか。

- 2 だれもが住みやすいまちにするために自分ができることを考えましょう。

- 3 「だれもが住みやすいまち」の学^{しゅう}習をして思ったことを書きましょう。
